

東京外国語大学

大学院国際日本学研究院主催ワークショップ

「アーカイブとしての戦前 SP 盤」

～日本伝統文化振興財団との協働事業報告～

2018. 3. 9

1. 「音」の記録の始まり

－19世紀末エジソンによる「フォノグラフ」からSPレコード登場まで

2. 日本のSPレコード史

－1910年の日本蓄音機商会に始まる、日本のSPレコードの歴史－

3. 「音」のアーカイブの意義

－形のない音にのみ残されていた貴重な無形文化遺産－

4. 歴史的音盤アーカイブ推進協議会（HIRAC）設立の背景

－取り残されていた音源記録のデジタル化－

5. HIRACの事業目的と成果

－設立趣旨とこれまでの事業成果－

6. 「音」のアーカイブの未来

－デジタル録音を含む音源活用の未来－



はじめに

コンピュータとネットワークの進歩は想像をはるかに超えて著しく、無数につながったコンピュータを介して、世界中のありとあらゆる情報が瞬時に得られる時代が到来しました。

このように、人類がこれまで経験したことのない未曾有（みぞう）の情報革命の進行と歩を合わせ、書籍、文献、絵画、写真、映像などあらゆる分野で築かれた文化遺産のデジタル化が全世界で急速に進められています。

すでに古い表現となりましたが、こうした「デジタル情報革命」を通じて人々が知恵と知識を共有し、何時でも何処からも情報を享受出来る時代には、言い換えれば「デジタル化」されていない情報は世の中に存在しないことともなります。

1. 「音」の記録の始まりー19世紀末エジソンによる「フォノグラフ」からSPレコード登場まで

「音」の記録の始まりは19世紀末（1877年？）のエジソンによる円筒式の蝋管録音・再生器「フォノグラフ」に遡ります。蝋管とは円筒状にした蝋製の筒でラッパに音を吹き込むと溝に音型に対応した音が記録され、その溝を針でなぞると音が再生されるもので、最も普及した製品がエジソンのフォノグラフでした。最初は30秒ほどの録音時間でしたが、やがて工夫されて4分まで再生できるフォノグラフが普及しました。



後に蠟管は円盤状に代わり、記録時間の長い円盤状のレコード盤となりました。そのメリットは両面使えることと、成型プレスが容易いことでした。その代表機種がグラモフォンです。



こうして 20 世紀初頭から世界に普及した SP レコードの材料は、カイガラムシの分泌物を加工したものでした。当時はまだプラスチックが生まれる前で、加工しやすく、固まると硬い材質を求めた結果、カイガラムシに至ったのでした。それにしてもどのくらいたくさんのカイガラムシで 1 枚の SP レコードが出来たのでしょうか？



2. 日本のSPレコード史

－1910年の日本蓄音機商会に始まる、日本のSPレコードの歴史－

1910年(明治43)、日本蓄音機商会として設立された日本で最初のレコード会社が、現在もレコードメーカーとして活動を続けている日本コロムビアの前身です。創業時から米国コロムビアと提携し、1946年(昭和21)に日本コロムビアへ改称。コロムビアに遅れて1927年(昭和2)にはビクターが創立され、以後、多くのレコードメーカーが戦前開業し、日本の新しい音楽文化の担い手となりました。SPレコードが同じ円盤式のEPレコード、LPレコードへと移行したのは、1950年代(昭和30年初頭ころ)からでした。約70年間にわたり、SPレコードは普及したこととなります。

3. 「音」のアーカイブの意義

－形のない音にのみ残されていた貴重な無形文化遺産－

大正期から昭和30年代までの70年間にわたってSPレコードにはどのようなジャンルの音楽が記録されていたのでしょうか。例えば昭和2年創業のビクターのカタログでは、驚くことに1年間に1000枚近いSPレコードが発売されています。そ

してその多くが、現在の見立てでは日本の伝統芸能に属する音楽でした。その後、流行歌やポピュラーソングも台頭しますが、その時期の日本の一般家庭で愛好されていた音楽は、やはり日本独自の音楽文化を反映しています。このように、「歌は世につれ、世は歌につれ」と言われたように、SPレコードに記録された10万曲とも目される音楽は、日本のその時代の文化の貴重な記録でした。

4. 歴史的音盤アーカイブ推進協議会（HIRAC）設立の背景

－取り残されていた音源記録のデジタル化－

この10万曲という、言わば捕捉が充分可能な数のSPレコードの本格的調査がこれまで行われなかった大きな理由に、日本で発行されたSPレコードの総目録が存在しないことが挙げられます。明治期からのレコードメーカーの多くはすでに廃絶し、その来歴出自はもはや定かではありません。

SPレコード時代から今日まで会社法人として存続しているレコードメーカーには、日本コロムビア、ビクター、テイチク、キングの4社が挙げられますが、第二次世界大戦の戦禍によって失われた原盤が数多く、近年までSPレコードの収集と保存は、中には何万枚ものSPレコードの所有を誇る「SPレコード・コレクター」と称される愛好家が大きな役割を果たしてきました。しかし、彼らのコレクションは、各愛好家の嗜好が反映された特定のジャンル（流行歌、クラシック、演芸など）

や、特定の演奏家の蒐集などの偏りがあります。
一方、SPレコードの保存と公開を展開する公開施設には、北海道新冠町の「レ・コード館」、金沢市の「金沢蓄音器館」、そして最大規模の東京千代田区の「昭和館」などがありますが、そのいずれにおいても、所蔵するSPレコードは全国の機関、個人からの寄贈によるもので、SP盤の所蔵目録からSPレコードの全貌を知り得るものではありません。

この度、文化庁委託事業「音楽情報・資料の収集および活用に関する調査研究」(日本の基礎音楽資料としてのSP盤の実態に関する調査研究)として弊財団が取り組む目的は、日本において発行された全てのSPレコードをタイトル別に網羅的に捕捉し、SPレコード総目録を作成することと決めました。

このSPレコード総目録には、レコード会社名、発売レーベル名、レコードタイトル、演奏者、曲目、発売日、レコード番号など基礎的データを収載します。これは、明治末から昭和初期の音楽文化を考える上での大変貴重な資料となります。

5. HiRACの事業目的と成果

－設立趣旨とこれまでの事業成果－

すでに訪れているデジタルネットワーク新時代に際し、弊財団がその設立に尽力した「歴史的音盤アーカイブ推進協議会 (HiRAC)」(佐藤修代表幹事/設立時レコー

ド協会会長・(株)ポニーキャニオン取締役会長)におけるSPレコード音源のデジタル化は、国会図書館への納入・公開事業へと大いに推進されました。これらSPレコードの再生音は、現代に暮らす我々に生き生きとした当時のままの音文化を描き出す、時代を証言する貴重な資料です。

日本における録音の歴史の全貌が初めて明らかとなるこの総目録の完成は、音文化の確かな証言者であるSPレコード音声デジタル化の大きな一助となるとともに、日本の音楽資料～音声情報の貴重なインフラストラクチャーとなることと確信するものです。

3. 添付資料として、明治期以降の廃絶したレコードメーカーを含むレコード会社名とそのメーカーから発行されていたレーベル名を五十音順に列記します。

(レコードメーカー名/レーベル名)

- 1.アサヒ蓄音器/ツル、アサヒ、サロン、シスター、ルモンド、サンデー、スメラ、エンゼル、タイガー、アズマ、東邦(個人吹き込み盤)、鶴標(中国語盤)、声明(中国語盤)、月虎(中国語盤)、栄利(中国語盤)
- 2.大阪蓄音器/ナショナル、キングレコード、キング、富士音盤
- 3.コッカレコード/コッカ、ホームラン、プレゼント、ハクヨー、ターバン、インチェス、マツザカクラブ、ゲンカン、高麗(朝鮮語盤)
- 4.三光堂/スタークトン、メノホン
- 5.昭和レコード製作所/ショーチクレコードスタジオ、ミヤコ、ショーワ、ショーチク、ヒノマル、シンヒノマル、オモチャ
- 6.昭和録音/ミリオン
- 7.帝国蓄音器/スタンダード、フクスケ、トーゴー、テイチク、ホーマー(戦後盤)、オーケー(朝鮮・台湾語盤)、ニュームーン(中国語盤)、百済(満州語盤)
- 8.帝国蓄音器商会/ヒコーキ、スヒンクス
- 9.東亜蓄音器/トーア、ピジョン、五色、クラブ
- 10.東京芝浦電気(東芝)/エンジェル、東芝
- 11.東京蓄音器/トウキョウ、フジサン

12. 東洋蓄音器 / オリエント、メリー、カスガ、ラビット、ヨシノ
13. 時枝商店 / ミカド
14. 特許レコード製作所・日本児童レコード製作所 / バタフライ、特許、金鳥、タカシマヤ、ヤマト、ニッポン児童
15. 内外蓄音器・太平蓄音器・タイヘイ音響・日本マーキュリー / 内外、ナイガイ、タイヘイ、コメット、オリンピア、キリン、マーキュリー
16. 日東蓄音器 / ニットー
17. 日本蓄音器商会・日本コロムビア / シンホオニー、ローヤル、アメリカン、ユニバーサル、グローブ、ニッポノホン、コロムビア、ニッチク、リーガル
18. 日本PCLレコード / PCL
19. 日本ファスト蓄音器・ニッポン蓄音器 / ファスト、ニッポン、トキワ
20. 日本ポリドール / ポリドール、大東亜、コロナ
21. ニッポンレコード・オーゴンレコード / ニッポン、トンボ、ホーオー、ユーモア
22. 日本録音 / ダイヤモンド
23. ビクターレコード / ビクター
24. 福永レコードプロダクション (FRP) / エトワール、テレフンケン、コロナ

他社に委託してレコード製作をしていた会社

1. 井上通信英語学校 / 井上英語教育

2. 快声堂／ミカド、クラウン
3. 原田時計店／チドリ
4. 高良時計店／ビクター（丸高）
5. 丸福レコード／タイヘイ（丸福）

複写盤（上記レコードメーカーS P盤より複写発売を行っていたレーベル）

1. エンゼル
2. 東郷
3. カブト
4. センター
5. フェニックス
6. パラダイス
7. マイツル
8. ザ・ヒーローベスト
9. キンシ
10. ピース
11. ミューズ
12. シスター
13. キューピー
14. タイシュウ
15. テイチク

16. ダンス
17. シンガー
18. ナニワブシ
19. スワン
20. エムオー